

水郷都市の保全再生計画

—茨城県潮来市—

正会員 ○笠原由季*

正会員 ※前田英寿**

* 大和リース株式会社

** 芝浦工業大学デザイン工学部 教授・工博（※設計指導）

1 研究の背景と目的

茨城県潮来市は利根川の水運で発達した水郷都市である。鉄道や自動車への交通転換により、水辺との関わり方が希薄化し、歴史的市街地の魅力が低下している。2011年3月の東日本大震災では市内低地で液状化現象が発生した。そこで本研究では、調査と計画を通じて水辺を中心とした都市再生のあり方を、液状化対策を踏まえて考える。

2 潮来市

1) 概要

人口は約30,000人である。現在人口減と高齢化が進んでいる。東京都心から約80kmに位置する。北部は海拔30~40mの行方台地、南部は低地となり、東部は北浦に面し、西部は霞ヶ浦と北利根川、南部は浪逆浦というように水辺に囲まれて豊かな水郷景観と水産物をもつ。総面積は、霞ヶ浦、北浦、鰐川、常陸利根川、外浪逆浦等の水面を含み、約68.35km²である。北部の台地は畑と山林が占め、南部の低地は水田として稲作が盛んである。主な道路は、東関東自動車道、国道51号、国道355号、主要地方道水戸神栖線がある。鉄道は国鉄鹿島線香取~鹿島16.7kmが敷設されている。市街地は国道51号沿道に形成されている。

2) 利根川との関係

平安末期に関東地方では利根川下流域を中心に水上交通が発達した。1600年徳川氏が幕府を開く際に、江戸を中心とした河川水運網と沿岸海運が整備された。潮来地方を含む霞ヶ浦、北浦及び下利根川流域でも、利根川の東遷事業によって、江戸と結ぶ内陸水路が確立し、常陸国の年貢米や様々な物資が川船で江戸まで廻漕されるようになった。東北諸藩の年貢米や諸物資が内川廻り潮来経由で廻漕されるようになったため、潮来の前川沿いには仙台藩や津軽藩などの蔵屋敷などが設けられ、潮来は港町として、また行楽地として繁栄した(図1)。



写真1 前川あやめ園

写真2 中心市街地

写真3 前川

3 歴史的市街地の調査

明治36年の地図により前川沿いに歴史的市街地を特定した(図2・3)。以下の5項目について特に調べた。

- ① インフラ：道路・水路・公園緑地(図4)
- ② 建物(新旧・用途)(図5)
- ③ 市民運動：祭り・商店街・住民運動
- ④ 空間資源：河川と船入場(図6・7)
- ⑤ その他：河岸・案内図・被害状況

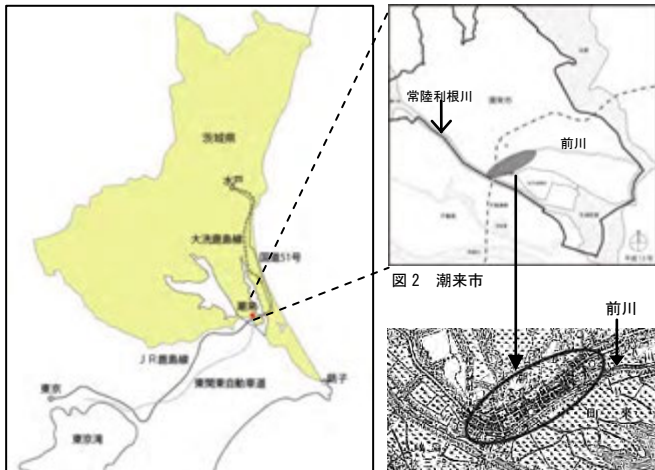


図1 茨城県

図2 潮来市

Revitalization of Riverside Town

—Iitako, Ibaraki Prefecture.—

○KASAHARA Yuki*

※MAEDA Hidetoshi**

* Daiwa Lease Ltd.

** Prof. College of Engineering and Design, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.(※Adviser)

調査の結果、前川沿いは液状化被害のエリアに該当するとともに、水運の衰退によって水辺と建築物が関係し合っていないことがわかった。河岸や江間(水路)、河川がほとんど埋め立てられ、水辺の風景が少なくなり、水郷潮来が変貌した。しかしよく見ると、歴史的建築物や石蔵などがまだ点々と残る。前川とその支線石田川には往時の風情を感じる。以上より液状化対策を踏まえた上で、残存する空間資源や建築物を活かす再生計画を検討した。

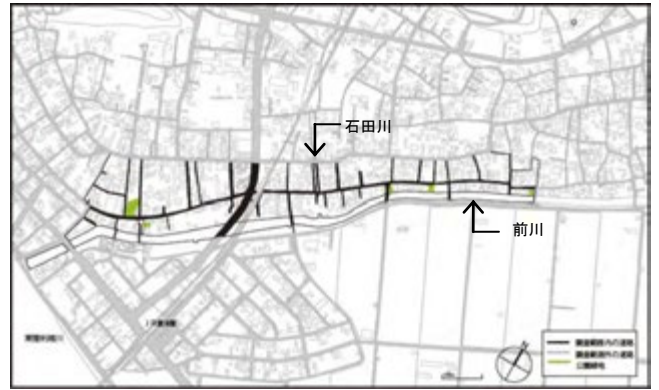


図4 インフラ(道路)

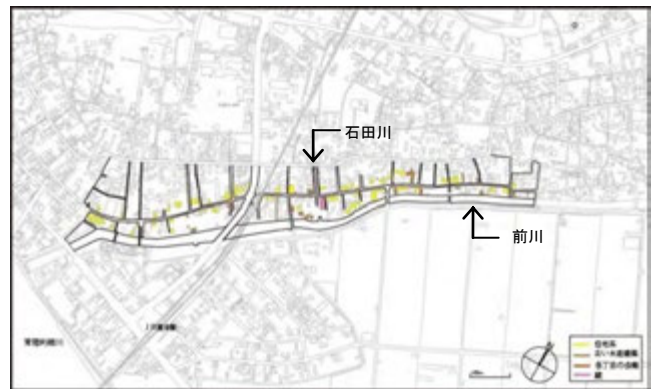


図5 建物利用図

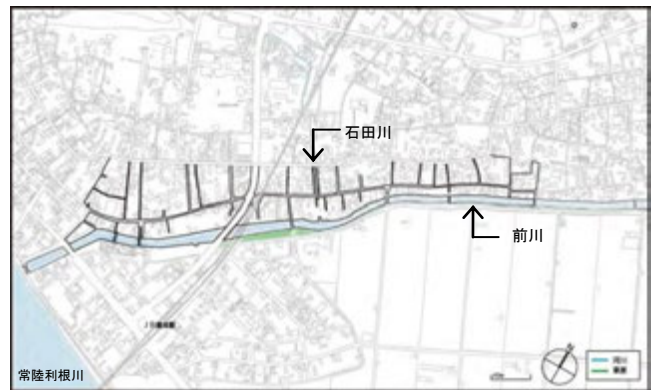


図6 河川図

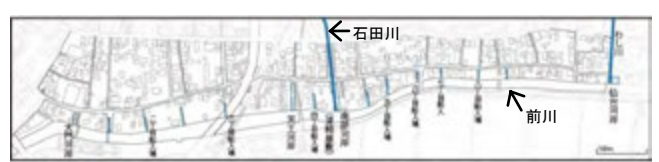


図7 現在の潮来地区と昔の船入場の比較

所在地：茨城県潮来市前川北岸地区
 主な用途：野外博物館
 敷地面積：4,109m²
 建築面積：1,026m²
 キーワード：水郷 歴史地区 保全再生

Location : North Bank of Mae River, Itako City, Ibaraki Prefecture
 Main Use : Open-air Museum
 Site Area : 4,109m²
 Building Floor Area : 1,026m²
 Keywords : Riverside, Historical District, Revitalization

4 設計計画

前川北岸地区の内、石田川周辺を設計対象地に仮定した。石田川は暗渠化されているが、木造建築や石蔵が歴史的趣きを今に伝えている。来街者と市民がともに潮来を知り学ぶ野外博物館を計画した。課題を4つ仮定し、設計計画を立案した。

- ① 河岸や水路、河川がほとんど覆われ、水郷潮来の景観を感じられない→石田川を開渠し、川沿いを歩けるようにする
- ② 河岸が忘れられている→古地図を元に水辺と路地を再生
- ③ 歴史的建築物と石蔵は空き家→ギャラリーとして再利用
- ④ 液状化対策→地盤改良、かつての水面を避ける、全て木造平屋



写真9 模型鳥瞰

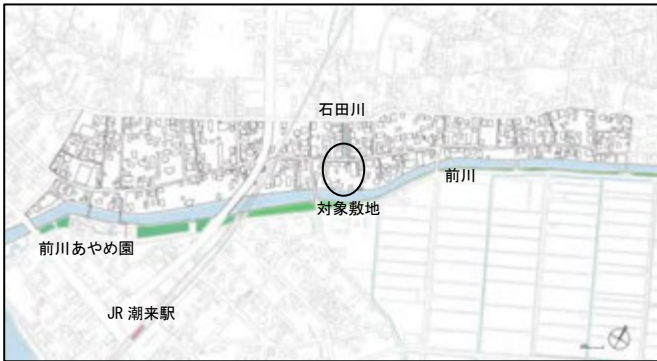


図8 対象地案内



写真4 敷地模型



図9 配置図兼1階平面図



写真5 路地の復活(濃い茶色部分)
 写真7 前川沿いの景観デザイン

写真6 石田川の開渠化
 写真8 浅瀬(天王河岸の一部復元)

5 結語

本研究では自分の故郷である潮来を取り上げ、保全再生計画を考えた。前川沿いの歴史的地区に着目し、石田川と一部の河岸を復元し、歴史的建築物を利用することによって、昔の潮来のあり方を目で感じ、水辺との関わりを増やす提案をした。多くの人に水郷潮来を知ってもらい、希薄化していた水辺との関係が増えることを望む。



図10 立面図